

前提条件メモ

冬の夜、寒いし、電気、ガス、水道がとまっている。

登場人物（イメージ）役割・立場

- ・主人公 特に…
- ・市民（その他） 子供（ ちゃん／くん）
- ・教師（高橋校長）
- ・医者（川部さん）
- ・看護師（三村さん）
- ・総代（石川さん）
- ・電気屋（北村さん）
- ・高齢者（杉さん（女）、杉田（女））
- ・レスキュー、自衛隊

プロログ（ナレーション）

ペット

神谷 「すみません。ペットを避難所へ入れるのは困ります。」

杉田 「じゃあ、うちのリクはどうしたらいいんですか。」

神谷 「それは…避難所の外でご自分で管理をお願いします。」

杉田 「そんなことはできません！リクは家族なんです！家族を一人外に置いておくなんて…。」

神谷 「ここには、犬アレルギーや犬嫌いな人もいるので、自分勝手な行動は慎んで下さい。」

杉田 「あなたじゃ話にならないわ。責任者を呼びなさい。」

校長 「お話をいただいたかがいました。その件については、私どもで検討させていただきますのでしばらく別室でお待ち下さい。」

—15分後—

校長 「相談した結果、避難所では、面倒をみることはできないので、どうしてもペットと一緒にいたい場合は、各自他人に迷惑がかからないように自己管理をお願いします。」

やむい

子供 「ママ、さむいよー。」（泣き出す。）

母 「うちの子がさむくて、困っているんですけど、なんとかありませんか。」

総代 「暖をとれるものを用意するのでちょっと待って下さい。」

静かにさせる

総代 「みなさーん。カイロを分けてくれる人はいませんか。また、家にあたたまるものがあ

「つたら持つてきて下さい。」

だれか 「これ、使つて下さい。」

母 「ありがとうございます。助かりました。」

市役所 「すみません。現在この避難所には500人避難しているのですが100人分しか今の食料がないのです。次に食料がくるのはあさつてで…」

市民 「なんでそんなに食料が少ねーんだ!。」

「そーだ、そーだ!もう少しねえーのか! (罵声)」

市役所 「ごめんなさい。ほんとうにすみません: 私たちのところは、まだ被害が少ない方なのです。申し訳ありませんが少しがまんをしてください。」

市民 「何故俺達だけがまんしなければいけないんだ?」

総代 「それはすみません。私達で提案した案があるのでそれに従つて下さい。お願いします。」

65歳以上の人。妊婦さん、小学生未満の人に食料を優先的にお渡ししようと思いますので、ここにお並びください。」

食料班 「ただ今、お並びいただいた人数を数えましたところ、120人いましたので、申し訳ありませんがまんができる人は、お戻りください。」

市民 「しかたないわねえ:」

食料班 「ただ今の人数がちょうど100人になりましたので、今からおくばりしようと思います。」

杉さん 「すみません:。トイレがつまってしまつて:。どうにかしてもらえませんか。」

衛生班① 「それではプールからバケツで水を運んでくるのでそれを流しましょう。」

衛生班② 「みなさーん、プールから水を運んでこようと思いますので、力のある方、お手伝いをおねがいたします。」

衛生班② 「トイレに水の入ったペットボトルを置いておくので、自分で流すようにして下さい。水が運べない人は、近くに係がいますので声をかけて下さい。」